

校長室だより		令和6年5月13日発行
共学共高	第	発行責任者
	65	白梅学園高等学校長
	号	武内 彰

近況報告あれこれ

ゴールデンウィークも明け、学校では一学期中間考査を控えている時期である。連休を利用して家族で出かけた生徒も多いようで、お土産をいただいたりした。私とは言えば、4月28日、29日、5月3日、4日、5日とバドミントン部の大会引率であった。「大変ですね」という人もいるが、教員1年目からずっと続いていることなので、当たり前のこととなっている。この時期に家族も私には何も期待していない。

5月6日には幸いなことに大会が入らなかったことで、進学塾主催のフェアに参加して、「私学と都立、ここが違う」というテーマで、中学生とその保護者を対象に、30分間の講演をさせていただいた。「ご縁がありましたら入学式でお会いしましょう」という、いつものメッセージで締めくくる。

ここ数日間の生徒たちの様子をお伝えしたい。

かねてから生徒会執行部は、制服移行期間中のセーター登校を実現したいという思いで何代かにわたって活動をしてきた経緯がある。5月1日の生徒総会において、その是非について議論をし、賛成意見も反対意見も出された結果として、「制服移行期間中に限り、セーター登校を認めてほしい」との提案を学校側に提出してきたのである。具体的には生徒会長のBさんの名前で校長あてに文書が届いたのである。すぐさま、臨時教員会が開かれ、生活指導部からこの案件が提出され、承認された。翌日からセーター登校が可能となった次第である。優しく穏やかな生徒たちが多い本校であるが、こうした自分たちの思いを実現するために具体的に行動に移し、それを成し遂げたという体験は、彼女たちの胸にどのように刻まれたのだろうか。「自分たちの力で世の中は変えられる」と考える日本の若者が、諸外国と比較して極めて少ない現状の中で、「その気になって手順を踏んで活動していけば変えられることもある」ということが刻まれたのであれば、私としては嬉しいし、教育的な意義もあるのではないだろうか。

体育実技の授業では、体育祭の準備が進められている。2年2組、3年6組の授業ではさまざまな種目の練習が行われていた。第2大体育館では、障害物リレーの中にある、「大きなシートを二人の生徒が引っ張り、その上にいる複数の生徒が声を合わせてジャンプをし

てシートの移動を妨げないようにする」練習が行われていた。なかなか大変な種目のようで、ジャンプし続ける生徒の中には、絶叫する生徒もいた。その他にも、綱引きやムカデリレーの練習も行われていた。グラウンドの一角では、リレーのバトンの練習やハードル走の準備が行われていた。バトンを渡そうとしてもなかなか渡せずにひたすら二人で走り続けたり、反対に受け手のスピードが上がる前にバトンを渡したりと、難しそうだ。徐々にコツがつかめてきたようで、スムーズに受け渡しができるようになっていた。生徒たちが担当の S 先生に「バトンはどちらの手で渡し、どちらの手で受け取ればいいのですか」といった質問をしていたようだ。素人としては、どちらでもいいように感じたが、左回りのトラックを走る時には、バトンは左手に持った方がよいとのことだ。つまり、右手で受け取ったら左手に持ちかえる必要があるのだ。授業の最後には、3年生チームと2年生チームとで、クラス対抗リレーが行われた。途中で2年生チームが半周以上の差をつけてリードしていたが、アンカーの時には僅差で2年生チームが勝利していた。また、グラウンドの中央では、3年4組の生徒たちが創作ダンスの練習に励んでいた。だいぶ形になっているようで、以前よりもまとまりがでてきている印象である。体育祭が楽しみである。



私は基本的に毎日校内を巡回して、授業の様子を見ている。それに加えて、定期考査一週間前には放課後に自習する生徒たちの様子も見るようにしている。いつものように巡回し

ていると、集中している生徒もいれば、私に気づいて会釈をしてくれる生徒もいる。時にはお菓子を食べている生徒にも出会う。ある日の放課後、カウンター席で自習をしていたBさんが、振り返って私に気づくと「先生、数学わかりますか？」と聞いてくるではないか。最近、そうしたことがなかったので、「わかるかな、わからないかもね」と答える。話を聞いてみると、常用対数の計算問題で、問題集の解答を確認している最中だが、「ここからどうしてこうなるのか、解答をみてもわかりづらい」というのだ。いつものように細かい字で書かれた解答集なので、老眼にはきついが、何とか読める。確かに解答に飛躍があって分かりづらい。隣にいた生徒にルーズリーフをもらって、解答してみるがうまくいかない。違う方法だなと切り替えて、何とか導くことができた。Bさんが「よくわかりました」と言ってくれたので大丈夫だろう。その後、1年生のいるH棟へ移動するが、1組（一部2組も）の複数の生徒たちが廊下において、「先輩に数学を教えてもらっているのです」「校長先生のインスタ投稿にいいねしておきました」などと、話しかけてくる。明るく元気なのはいいが、3組の教室内では自習している生徒たちもいる、周囲への配慮も、ね。

教員室前の廊下では、熱心に先生に質問する生徒たちの姿も見られる。定期考査のために勉強をするわけではないが、運動部の生徒が各大会を一つの目標にして臨むように、定期考査はこれまでの学びを確認する場であろう。生徒たちの健闘を祈る。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)